

令和6年(2024年)度年間授業計画表					
学年	1年	学科	全学科	必選	選択必履修
教科	芸術	科目	美術 I	単位	2単位
使用教材	高校生の美術 I (日本文教出版)				
学習目標	<p>① 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>② 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>③ 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>				
単元と内容					
1 学期	オリエンテーション 身のまわりのもののスケッチ 深山和紙を使った絵うちわ制作	<p>植物の、種類ごとの特徴や構造、成長過程が影響してその形が成り立っていることを理解し、観察結果を素直に写しとる。</p> <p>複数のモチーフを描くことや詳細に描き込むことに挑戦する。あるいは、くりかえし描いて改善を試みる。</p> <p>用途を満たすだけでなく美しさを同時に求める日本の伝統的な美的感覚を理解する。</p> <p>型模様やスケッチした草花などを構成し、和紙に転写、彩色し、絵うちわに仕立てる。</p> <p>平面絵画と異なり表裏の二面があるという構造、和紙の透け具合などを利用した、絵うちわでこそその演出づくりに挑戦する。</p>			
2 学期	キャンドルオブジェ制作 (練習工作)立方体づくり オブジェ制作 ブランディングデザイン	<p>栓の角材を用いてフレーム構造の立方体をつくる練習工作を通じて、工具やボンドの扱い方や木材の性質を理解し、立体物を創作するための計画の立て方を学ぶ。</p> <p>ろうそくの交換と防燃性に配慮した構造にすることを絶対条件とし、キャンドルオブジェを制作する。自由度が高いため構造・素材・加工方法を構想し、自分なりの理想を具現化し、独創性を養う。</p> <p>完成後の、ろうそくを灯した時の光と影のあり方を想像し、その演出を意識してオブジェの形態や素材選びを構想する。</p> <p>「キャンドルナイト」という世界的な運動を知り、社会性・協調性を養う。</p> <p>身のまわりのBI(ブランドアイデンティティ)・CI(コーポレートアイデンティティ)を観察し、デザインの意図を考える。</p> <p>架空のブランドを設定する。特徴、他との差別化を図ったブランドコンセプトを構想する。</p> <p>身近な商品の名称を観察し、耳と印象に残り、興味を持たれる名称を理解する。</p> <p>ブランドコンセプトにふさわしく、音感・音数を意識したブランド名を構想する。</p>			
3 学期	ブランディングデザイン	<p>自分の氏名のレタリング作業を通じ、整って見える文字のあり方を学ぶ。</p> <p>4色以内のアクрилガッシュによる平塗りで、ブランド名を含むことをデザイン条件とするなかで、ブランドの特色を表現する図案を構想する。</p> <p>アクрилガッシュで丁寧な彩色を行い、絵の具を正しく扱い、完成度を高める。</p>			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	対象に潜む魅力の構造、受け継がれてきた美意識、材料道具を扱う技術、主題の意図などを正しく理解し、ふさわしい表現方法を創造できるようにする。			
II	思考・判断・表現	対象に潜む魅力の構造、受け継がれてきた美意識、材料道具を扱う技術、主題の意図などを踏まえ、自分ならではの着眼点をもち、表現の構想をふくらませ、創意工夫することができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	与えられた主題を表面的に理解するにとどまることなく、主体的に深く考察し、改善の余地を見出し、くりかえし改善を試みることを通じて、心豊かな生活や社会を創造していく姿勢を養う。			
評価方法	観点 I		観点 II		年間時数
	授業態度 作品提出 プリント課題		作品提出 相談時の態度		作品提出
					65 時間
					実施
置賜農業育てる能力		自己肯定感・主体性・生きる力			